

私達日本人が忘れてしまった言葉「ありがとう」



四恩を知って
知恩報恩すべし



地方紙の読者欄に眼が止まりました。初老の男性の投稿で、「ほっこりした」の表題がついていました。男性が緑道の草取りをしていたら、「綺麗にしているの・・・」の言葉が聞こえたそうです。振り返ると、5〜6歳の女の子が、「・・・ありがとう」の言葉を云ったので、その男性は女の子に「ありがとう」の言葉を返したそうです。男性は一瞬の出来事に疲れがとれ「心」に何か暖かいものを感じたそうです。「ありがとう」良い言葉です、しかし、今の私達日本人が一番忘れてしまった言葉ではないでしょうか？



私達は、日々の生活に追われ自分が受けている恵みに気付かず「当たり前」「当然」と思い、自分が恵みを受けている事を自覚する事なく自己中心の考えで生きているのではないのでしょうか？

一人では生きてゆけないのです、周りの支えに依って生かされているのです。それが「四恩」であり感謝する対象であります。

自らを生んでくれた「父母の恩」、直接・間接に助けてくれる「一切の人々の恩」、他国からの侵略から護ってくれる「国家の恩」、宇宙法界に依る天の恵み・地の恵みである「仏・法・僧の恩」です。

「ありがとう」それは現世の言葉、三世（過去・現在・未来）を通しての知恩報恩（恩を知って恩に報いる）は「南無妙法蓮華經」です。その根拠を今からお話させて貰います。

日蓮聖人御妙判、本満寺御書にこの様に書かれています。

「諫臣國に在れば則ち其の國正しく、争子家に在れば則ち其の家直し、國家の安危は政道の直否に在り佛法の邪正は經文の明鏡に依る。夫れ此の國は神國なり神は非禮を稟けたまわず。天神七代地神五代の神々、其の外諸天善神等は一乗擁護の神明なり、然も法華經を以て食と為し、正直を以て力と為す」

現代解釈



「主君の悪いところをいさめる家来がいる國は栄え、親の不正をいさめる子がいる家、この家も栄える。國家が安全であるか危険であるかということとは、政治が正しいか間違っているかで決まる。仏法の『邪と正』は、曇りのない優れたる教えに依る。

日本國は神の國であり、邪悪な人間が祀つてもその心を受けず、礼儀にはずれた物事は受納しない。『一乗擁護の神明』とは、『一乗』である法華經擁護の本来の役割とする神々、即ち諸天善神をいう。然も諸天善神は法華經を以て食と為し、正直即ち正しき行いを以て力と為す」

日蓮聖人の云われた「日本國」とは、如何なる國を云うのか。

日本の國は、小さな島國ではありますが春夏秋冬四季折々の美しさを持つ國であります。此の國の成り立ちを考えますと、「天つ神」と云われた天照大神（偉大にして神聖な先祖の御霊）より始まります。

「豊葦原の千五百秋の瑞穂國は、是れ吾が子孫の王たるべき地な

り、宜しく爾皇孫就いて治せ、行矣、宝祚の隆えまきんことまさ
に天壤と窮り無かるべし」(日本書紀)

現代解釈

天照大神が、天孫(降臨)の天津彦彦火瓊瓊杵尊に豊葦原瑞穗國
(日本)に天降つて統治するように遣わされて出来た國であります。

「天つ神さだめたまひし國なれば わが國ながらたふとかりけり
檀原の宮のおきてにもとづきわが日本の國をたもたむ」(明治天皇御製)

現代解釈

天照大神が天降つてこの檀原の地に天孫の天津彦彦火瓊瓊杵尊に
統治するようにと。御命じになりました。その初代が人皇第一代神武
天皇であります。

太古からの人類の歴史を紐解いてみれば、いずれの時代にも常に
争いの繰り返しでした。あの獐猛な虎や豹ですら、仲間同士の肉は
食わないと云う仁義を守っている。ましてや万物の霊長である人間
同士が互いに争う。其の人間界を平和に改めると云う事から神武
天皇の建国が始まりました。その建国の精神である三種の神器に
込められた皇祖の御教えとは？

慶びを積む || 玉の徳(慈悲の心)・
暉きを重ねる || 鏡の徳(智慧の心)
正しきを養う || 剣の徳(正義の心)

この三種の神器の誓いのもとに万世一系の天皇の皇位が継承されてきました。つまり天上文化を地上に建立すると云う約束の元に始められた國なのであります。

「六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇と為さむこと、亦よからずや」(日本書紀)

現代解釈

天地四方八方まで、全ての人間が家族のように仲良く暮らす事。天照大神が天孫(降臨)の天津彦彦火瓊瓊杵尊にお授けになった御教え(三種の神器)の心を弘めて行こう。つまり、天下・全世界を一つの家にする事。



それまで神の国であった日本に仏教が渡来したのは西暦五三八年とされています。聖徳太子は、仏教渡来の後三六年后に生まれられました。その後、太子に依って日本の仏教は始まりその方向が決定されました。それは国の中の対立・闘争を仏教により浄化して行く事です。

そこで聖徳太子は「十七乗の憲法」を制定されました。

二に曰く、篤く三宝を敬へ。三宝とは仏・法・僧なり。則ち四生の終帰、万國の禁宗なり。はなはだ悪しきもの少なし。よく教えうるをもって従う。それ三宝に帰りまつらば、何をもつてか枉がれるを直せん

現代解釈

二、心から三宝を敬いなさい。三宝とは仏法僧のことです。人生、生老病死の間で最後に行き着くところは。どこの国でも究極の宗教です。どの時代でも、どんな人でも仏教を尊ばないものは無い。人間に悪人は少ない。良く教えれば宗教に従う。仏教に帰依しないので曲がった心を正すことが出来ようか。

では、**十七条の憲法に記されている三宝 仏・法・僧とは？**それは、**法華経・妙法蓮華経の事**です。何で法華経や！と、反論される事と
思います。その根拠として、聖徳太子が書かれた、直筆の書籍
「法華義疏」が存在します。義疏とは、にせの書物（にせもの偽物）
ではありません！解説書の意味で法華経の解説書の事です。

「法華義疏」として国会図書館に保存されています。



十七条の憲法とは、人々に道徳や心がけを説いたものです。道徳的な規範が示るされたものであります。太子の仏教は法華経に依って一切衆生・皆仏に成る道を目指しました。その為、男性・女性共に菩薩道を行じて理想社会「仏国土」を建立して行く事。

菩薩道とは、自分を後回しにして他の人を先に益す。

「己を忘れて他を利するは慈悲の極りなり」（伝教大師）
この様な仏国土の建立は印度になく、又、支那になく、只、
日本に於いてのみ見る事が出来るのです。

法華経で説きあかす真理正法は、**自他一體**（個人と社会は**一體**不離）、**物心互具**（物にも心にも囚われない）つまり、**国家の立正安国**に依つてのみ初めて到達されます。世界や国家が救われない限り、**その中の個人の救いはありません。**

我が国の天孫降臨の建国の精神（**国体**）と、法華経で説かれる三大秘法（**本尊・戒壇・題目の仏法**）は、共に冥合（理論的に合い通じている）している。これを**法**国冥合と云います。（**仏法と王法は冥冥にして合い通じている**）

我が国は神が**天地・国家**を創造し、統一して支配したという**思想**があります。「**国土の盛衰を計る事は佛鏡**には過ぐべからず。佛法に付きて**国も栄へ人の寿も長く又、佛法に付いて国も喪び人の寿も短**かかるびしと見えて候。」
「**神国王御書**」

正法である**一乘法華経**を信仰する時、**国を守護する善神は威光**勢力を増します。

日蓮聖人御妙判「**聖愚問答鈔**」に云く。



「我れ**釈尊**の遺法をまなび、佛法に肩を入れしより**已來**、**知恩**をもつて最とし、**報恩**をもつて前とす。世に**四恩**あり。之を知るを人倫となづけ、知らざるを畜生とす。予父母の後世を助け、**國家の恩徳**を報ぜんと**思**うが故に**身命**を捨つる事、**敢**えて**佗事**にあらず、**唯**だ**知恩**を旨とする計りなり。」

私達は生まれながらにして、天地・国家・家族・社会等々、
其の他の多くのものから不断（途絶える事なく）に恩を受けている。

この恩に報いる事は誰人にも自ら課せられた尊い使命でありま
す。この恩を知り、之を感じ、之に報いる。つまり、「知恩」「感恩」
「報恩」の大切さを忘れては人ではありません。否、畜生すらも
受けた恩をば忘れないであろう。

南無妙法蓮華經

合掌



毎月第三日曜日には、法華經の法話会をしております。
聴聞はどなたでもご参加下さい。合掌

大阪府八尾市服部川933 天龍山一の谷 安國寺

電話 (072)941-8201

<http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/index.html>

パワースポット「一塔合安 妙宗大靈廟」で検索お願い

(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)